

率の差であることを示している。なお参考までに他の種別の人件費比率を示すと、療養型病院では黒字病院 63.2%、赤字病院 72.5%、精神科病院では黒字病院 64.3%、赤字病院 71.9%で、ほぼ同じ傾向にある。

こうした状況を見ると、一般病院における赤字病院は、人件費をどうマネジメントするかということと、集患力をどう強化するかが課題と言えよう。

5) 病院種別の設備投資の実施割合

表 13 は、直近 3 年間（平成 16 年度～平成 18 年度）連続して有効データを提出した同一病院のうち、この 2 年間で固定資産が 150%以上増加した病院を設備投資実施病院とし、病院種別ごとに設備投資の実施割合を示したものである。

これによると、一般病院、ケアミックス病院、療養型病院では 6～7%台、精神科病院が若干低く 4%台の割合で、それぞれ設備投資を実施している様子が窺える。この 4 種別の設備投資実施割合の平均は約 6%なので、単純に単年度に換算すると医療法人のうち 3%程度が、毎年設備投資を実施していることとなる²。言い換えると医療法人立病院は 5,694 施設を数えるので、その 3%、つまり 170 病院程度が、毎年設備投資をしていると考えられる。

表 13 病院種別の設備投資の実施割合（医療法人）

	3年間データを連続して提出した病院数 (A)	設備投資実施病院数 (B)	設備投資実施病院の割合 (B)/(A)
一般病院	173	12	6.9%
ケアミックス病院	185	14	7.6%
療養型病院	144	9	6.3%
精神科病院	143	7	4.9%

※：3年連続データを提出した病院のみ対象

6) 設備投資の資金調達

表 14 は、上記設備投資を実施した病院における資金調達を見るため、平成 16 年度から平成 18 年度間の貸借対照表における固定資産およびその関連項目の増減を示したものである。表 15 は、同一病院における平成 17 年度・18 年度の減価償却実施額を示したものである。

表 14 と表 15 の意味するところは、たとえば一般病院についていえば、平成 16 年度に比べ 18 年度には固定資産が 607,492 千円増加しているが、この増加分と平成 17、18 年度の減価償却の合計 118,101 千円を加えた額を設備投資額 725,593 千円と解釈することにある。一方、負債、純資産の増加額から設備投資額を何によって調達したかを

² 平成 17 年度と平成 18 年度の 2 年間に設備投資した病院の割合が 6%。6%÷2 年間=3%/1 年間。